

次号予告

特集／特殊教育と理学療法士・作業療法士

- 障害児の治療と教育……………神奈川県立ゆうかり園 浜田清志
 障害児の治療に携わって
 (理学療法士の立場から)……………和歌山県立南紀養護学校 木下賢治
 障害児の治療に携わって
 (作業療法士の立場から)……………大阪府立堺養護学校 川合輝子
 養護・訓練……………大阪府科学教育センター 上田信一
 <随想>特殊教育教員認定試験の傾向……………都心障センター 工藤俊輔
 外国の養護学校における理学療法士・
 作業療法士のあり方……………米国 佐藤剛
 サービスを受ける立場に立って… 兵庫県心身障害児福祉協会 片岡実
 とびら 羊年に寄せて……………東京女子医大 山形恵子
 講座 住まいと身体障害 4. 家屋改造の実際2……………都養育院 奥川幸子
 失行症・失認症 I 総論(2)……………東大・リハ部 上田敏
 ミニ対談……………兵庫リハセンター 黒田大治郎
 大阪大学 小林紘二
 プロGRESS リウマチ(4)……………神奈川リハセンター七沢病院 岡崎健
 児童精神衛生における最近の諸問題(4)
 (子供の自殺)……………国立精神衛生研 池田由子

編集後記

3月、今年もあとわずかです。若いPT、OTの皆さんを迎える季節となりました。聞くところによりますと、今年のPT、OT志願者は大変に多く、競争率がどこの学院も非常に高かったとか、やっとリハビリテーション専門職も受験生の間に少しは知れることになったということでしょうか。迎える学院、病院、施設側としては、「優秀なPT、OTが期待できる(もちろん、今までも優秀でしたが)」と喜んでおられることでしょう。中高年PT、OT(?)は若い人に押しまわられながら、これから一層の精進をしなければ、心身ともに老朽化——ということにもなりかねません。頑張りましょう。

さて、今月号の特集として「重複障害」をとり上げました。序文でも書きましたように、リハビリテーション医療の中ではなじみの薄いこのことばで果してうまく特集

になるかと大変不安でした。ところが結果は案に相違して立派なものになりました。常に目の前の患者のもつニーズに応えようとするPT、OT諸氏の日頃の臨床姿勢に改めて頭が下りました。「重複障害の経験」では、5症例のどれをとっても難しく、情熱を傾けて問題の解決をはかろうと試行する執筆者の姿を思いうかべながら読ませていただきました。また合併している障害のうち、臨床上比較的多くみられる視覚障害者と聴覚障害者を扱う上での留意点について田口、植村両氏におねがいをいたしました。

「講座」では、「住まいと身体障害」のつづきと「失行症・失認症シリーズ」がはじまります。担当の先生方、よろしくおねがい致します。住宅相談・判定におけるPT、OTの存在は不可欠です。大峯氏はPTの立場から、豊富な臨床例を展開しておられます。大いに参考にしてくださいと思います。(寺山久美子)

<編集顧問>

- 天児民和
九州労災病院長
五味重春
筑波大学心身障害学系教授
砂原茂一
国立療養所東京病院名誉院長
津山直一
東京大学教授・整形外科
水野祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

- 上田敏
東大リハビリ部
荻島秀男
わらび診療所
大喜多潤
兵庫県リハビリセンター
鈴木明子
府中リハビリ専門学校
寺山久美子
都心障センター
奈良勲
有馬温泉病院
福屋靖子
筑波大学
松村秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

- 大橋博
大丸幸
金子翼
鎌倉矩子
紀伊克昌
駒沢治夫
佐藤章
佐藤馨
嶋田智明
高橋正明
武富由雄
谷岡淳
富岡詔子
中屋久長
藤沢しげ子
松本妙子
丸谷隆明
矢谷令子
山下隆昭
和才嘉昭
(担当 細田・西塚)